平成２１年度第５回経営協議会議事要録

日　時 ： 平成２１年１１月１２日（木）　１３：３０ ～ １５：２５

場　所 ： 特別会議室（事務局３階）

出席者 ： 谷口　功、安部　眞一、山村　研一、田口　宏昭、森　光昭、山本　晃、山崎　広道、檜山　隆、猪股　裕紀洋、稲垣　精一、江口　吾朗、小堀　富夫、園田　頼和、田川　憲生、平田　耕也、星子　邦子

欠席者 ： 原田　信志、遠山　敦子、丸野　香代子、坂本　基

○ 新任委員の紹介

議長から、参考資料１に基づき、井上孝美委員の後任として遠山敦子委員が、小宮義之委員の後任として坂本基委員が、それぞれ就任した旨紹介があった。

○ 議事要録の確認

平成２１年度第３回会議議事要録及び第４回会議（書面会議）議事要録が確認された。

議　　事

１．平成２１年度人事院勧告に伴う熊本大学役職員の給与等の取扱い及び国立大学法人熊本大学役員給与規則の一部改正について

議長から、本学の役職員の給与等の取扱いについて、平成２１年度人事院勧告を受け９月４日の役員会において、人事院勧告を重要な参考材料として対処することが了承され、現在、政策調整会議において本学における取扱いを検討し、教職員組合と交渉を行っている旨報告があった。

次いで事務局から、資料１－１に基づき、人事院勧告の概要等について説明があった後、議長から、本学役職員の給与等については、役員会において了承された「平成２１年度人事院勧告に伴う熊本大学役職員の給与等の取扱いについて」の考え方を基に検討することとしたい旨提案があり、審議の結果、了承された。

了承されたことを受け、議長から、「平成２１年度人事院勧告に伴う熊本大学役職員の給与等の取扱いについて」に基づき人事院勧告に準拠して役員給与を改定するにあたり、国立大学法人熊本大学役員給与規則の一部改正について審議願いたい旨提案があった。次いで事務局から、資料１－２に基づき、改正内容について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

２．その他（意見交換）

議長から、本学において柱となる施策について、次のとおり発言があった。

・教育について、総合的な力を持った人材を育成するために、教育プログラムの充実に取り組んでおり、特に教養教育のあり方の見直しについて、安部理事を中心に検討を行っている。
・研究について、今後も世界でトップレベルを目指していきたいと考えている。現在、自然科学系と生命科学系でグローバル COE の３つのプログラムが進行中であるが、融合的な分野

でも世界のトップレベルになれる研究を目指したいということで、現在、様々な分野が集まって、熊本地域の水や環境を中心としたプロジェクトに向け検討を始めている。世界のトップレベルにある研究やその裾野となる研究をさらに発展させながら、一方では新たな領域を作りたいと考えている。

・国際化について、世界で通用する大学となるために、現在３５０人弱の留学生数をできるだけ早期に５００人にして、将来的には学生の１０人に１人が留学生であるような国際的な環境の中で教育を行えるように取り組んでいきたいと考えている。

さらに、その他の取り組むべき検討課題について、次のとおり発言があった。

・熊本地域における教育について、現在１４の大学等が集まって高等教育コンソーシアム熊本を形成しているが、その機能強化に向け、活動を具体化させたいと考えている。来年は本学がコンソーシアムの事務局を担当することもあり、地域全体の教育の強化についても考えていきたい。

・赤煉瓦造りの五高記念館は、他大学にはない本学の財産であるため、それを有効に活用し、熊本の滞在者等へ熊本の歴史・文化などを「熊本学」として講義できる場を提供するような事業を行うことができればいいと考えている。

引き続き議長から、参考資料２～４に基づき、国立大学法人の現状等について説明があった後、本学への提案、今後検討すべき課題等について自由に意見をいただきたいとの発言があり、種々意見交換が行われた。

意見交換の概要は次のとおり。（◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等）

◇このような意見交換の機会を設けることはいいことだと思う。従来、分厚い資料で、会議では説明がほとんどで、発言できないことが多かった。何のために外部委員がいるのかということを理解していただかないと、法人化後、経営協議会の存在意義はどこにあるのかと疑問に思う。

◇先日開催された６０周年記念式典に、外国から５０人近くの交流協定大学の関係者が出席しており、熊本大学が国際化に向けて、いかに取り組んでいるかということを実感した。しかし、他県の大学に比べると、熊本大学の国際化は遅れていると思う。その理由について、熊本大学を魅力的にして、東南アジアなどからいかにして学生を運んでくるかということを考えれば、一つは農学部がない、もう一つは経済学部がないということが問題になっているのではないか。国際化が叫ばれる中でそれらが阻害要因になっているのではないかと思う。それが、熊本大学が日本でこのような好位置にありながら国際化にインパクトを与えられないということになっているようで残念に思う。しかし、今さら農学部や経済学部を熊本大学に設置するように働きかけたところで、非常に実現の可能性は低い。そうすると、コンソーシアムをいかに有効に使っていくかが重要になってくると思う。例えば、東海大学には農学部があり、熊本学園大学には経済学部があるため、そのような大学と本気になって連携することが必要ではないか。コンソーシアムはできたばかりで、実際にはあまり機能していない。事務局すら定まっておらず、各大学が持ち回りで担当している。熊本大学と他の大学が連携することは、他の大学からしても歓迎することだと思う。熊本大学と熊本大学にない学部を持つ大学とが連携を強化して、国際化に向けて努力すべきではないかと思う。

◆現在、熊本県全体で留学生は７００人ぐらいしかいない。本学にその半分の３５０人がいるが、せめて全体で１,０００人にしたい。コンソーシアムにしっかりした機能を持たせるために、その中心となるしっかりした事務局を作りたい。来年からの２年間、本学が事務局を担当するので、それを契機に、しっかりとしたものを作ろうと考えている。

◇コンソーシアムについては大賛成。熊本大学が覚悟を決めて、引っ張っていかなければ、作った意味がない。留学生の問題については、現在、インターナショナルの趨勢はグローバル化に対応していて、地球規模で捉えないといけない。農学部や経済学部がないことも理由の一つだ

が、熊本という土地自体が、外国人から見て非常に興味がある土地であれば、熊本大学にではないにしても、留学生は来る。長崎は圧倒的に留学生が多いが、それは長崎という土地の魅力によるもの。福岡も然り。熊本大学の知名度はそれほど低くないので、そこに、地域のおもしろさがあれば人は来る。おもしろくしようと思えばいくらでもできる。

◇中期目標に、幅広い教養教育によって優秀な学生を育てるということが書かれており、まさにそのとおりだが、教養教育はこれだけやれば十分だということなどありえない。世の中の変化に応じて考えていかなければならない。そのような観点から考えると、熊本大学は、率直に言って、人文科学系が弱い。それを強くするのは結構だが、先生が足りないので、コンソーシアムを組んで、どこからでも先生を引っ張ってきて、広い範囲での教養教育に重点を置けば、優秀な学生は育っていくと思う。いつの時代にあっても、教養教育がなければ、いくら専門教育をやっても、専門バカを育てるだけになってしまう。現在、学問そのものも非常に細分化されてしまい、統合ということが忘れられている。今はどちらかと言えば、統合の動きの方が大事ではないかと思う。そのような意味で、人文科学の教育を充実していけば、熊本大学はもっと魅力ある大学になっていくのではないか。

◇教養部がなくなり、なぜなくすのかということをかなり言ったが、今の大学生は少なくとも１年間はあのような教育がなければならないと思う。当時は、それぞれの学部がそのような教育を学部でいたしますという回答だったが、実際に学部に分かれると、そこまでやるのは難しい。最近は大学が大学院になりつつあり、専門家を育てるにはいいかもしれないが、その基になるものがない。昔は、例えば五高などで人間が形成されていたが、最近は、高校が大学受験に切り替えて、そのようなものが全くできない。そういう点では、人文科学的なものにもっと力を入れていただきたい。

◇評価結果の資料の１４ページに「経営協議会については、ほとんどの法人において適切な審議が行われ、学外委員の意見を法人運営の改善に反映している」とあるが、これはどういう意味で書かれているのか疑問に思う。このような会議に出るたびに分厚い資料をいただき、読むのも精一杯で、半分も読めない資料もあるので、自分の関心のあるところだけでも聞いてみようかと思うが、質問する時間もない。例えば、今回はこのようなことについて意見をいただきたい、ということで重点的にしていただければ、分厚い資料を読んで会議に出席するだけということにならずに済むので、ぜひお願いしたい。

◇昔は他県から五高に来て学んでいた。それは、五高に行けば得るものがあると思われていたし、街の人たちにも五高の生徒を温かい目で見て育てようという意識があったから。コンソーシアムによって各大学をどれだけ結ぼうとしても、場所も違えば考え方も違う。国立と私立ではそれぞれ事情が違うので、熊本大学が自身の価値を高めていただき、そういう思いを持っていただきたい。そうしなければ、大学がたくさんできてきているので、地元の人たちの熊本大学への期待感が見えなくなっている。最近の学生を見ると、非常に素直だが、自分は何をしたいという目標がなく、もったいないと思う。大学の教育において、学生たちに何か目標を持たせながら勉強をさせることが、結果として熊本大学の価値を高めることにつながると思う。期待しているのでぜひお願いしたい。

◇業務の実績に関する評価結果で、男女共同参画の推進に向けた取組が評価されており、非常にうれしく思う。今年は横井小楠の生誕２００年で様々な事業が行われているが、彼とその親族の女性たちはそれぞれ社会活動、教育活動に非常に尽力した。そのような素地のある熊本で、女性の育成ということで今後も力を入れていただければうれしい。

◇熊本大学に農学部がないことが残念であるということは以前申し上げたが、幸い農水省系の様々な試験場があるため、それらとうまく連携を深めていただければいいのではないかと思う。

留学生については、熊本大学に来る留学生は東南アジアや中国からが多いと思うが、そのような点から今後重要になってくるものの一つとして環境浄化技術が挙げられると思う。大学の魅力は、もちろん土地柄も影響するだろうが、その大学の得意芸と関係してくる。環境保全技術と省エネ技術が今後世界的に必須の技術開発になると思うので、熊本は水も空気もいいため、それらを得意芸にできるような研究をやっていただければと思う。

報告連絡

１．平成２０年度決算について

議長から、平成２０年度決算について、６月１８日の本会議において審議された平成２０事業年度財務諸表が資料２－１のとおり９月１日付けで文部科学大臣による承認を受けた旨報告があった。さらに、財務諸表中の「利益の処分に関する書類」（案）（剰余金の処分）については、文部科学大臣と財務大臣との協議中であるため承認されていないが、協議が整い次第、文部科学大臣により承認がなされる予定である旨発言があった。

次いで事務局から、資料２－２～２－６に基づき、各財務指標の分析結果等について説明があり、意見交換が行われた。

意見交換の概要は次のとおり。（◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等）

◇診療経費比率について、低い方がいいということで、一般の病院であればそうかもしれないが、大学病院では病気に関する臨床研究を行っている。熊本大学でも、大学として臨床研究にかかる経費を支出しているのか。附属病院の中でやりくりしているのならば、その経費はこのような統計においてどのように考えられているのか。そのようなことを大学としてもう少し精査していただきたい。附属病院は熊本大学にとって非常に大事なフラクションである。患者さんの健康管理のために不可欠な研究を附属病院の中でやりくりされているのであれば、それが経費に出てくる。単に、これだけ儲かった、これだけ経費がかかったということではなく、そのような面で経費がかかっていて、儲けた分がそのような研究に使われているということであれば、その方が大学病院としては健全ではないか。

◆おっしゃるようなことが本学で起こっているので、単純な計算ではそのようなことが数字に表れてこない。

２．平成２２年度概算要求事項（施設整備事業）及び平成２１年度補正予算について

議長から、資料３に基づき、文部科学省から財務省へ提出された平成２２年度概算要求事項中公表されている施設整備事業のうち本学に係る要求事業、及び平成２１年度補正予算における対象事業のうち本学に係る事業について説明があった。

なお、議長から、平成２１年度概算要求事項については、今後、文部科学省と財務省との折衝の過程で要求内容が変更になることも予想される旨付言があった。

３．平成２０年度に係る業務の実績に関する評価結果について

議長から、本年６月に文部科学省へ提出した平成２０年度に係る業務の実績について、１１月６日付けで国立大学法人評価委員会から評価結果が通知された旨報告があり、次いで田口理事から、資料４に基づき、評価結果の概要について説明があった

４．第２期中期目標・中期計画（素案）について

議長から、第２期中期目標・中期計画（素案）について、６月１８日の本会議における審議を経て文部科学省へ提出した後、国立大学法人評価委員会国立大学法人分科会において審議が行われ、その審議結果を受け、本学の素案を一部修正することとなった旨報告があった。さらに、資料５に基づき、本学の素案における修正点の内容及び修正理由について説明があった。

以　上

○ 次回開催 ： 平成２２年1月２１日（木）１３時３０分から

＜配布資料＞

参考資料１	国立大学法人熊本大学経営協議会委員名簿
資 料 １－１	平成２１年度人事院勧告に伴う熊本大学役職員の給与等の取扱いについて
資 料 １－２	国立大学法人熊本大学役員給与規則改正概要（案） ほか
参考資料２	国立大学の１２の真実～国立大学の正しい理解のために～
参考資料３	平成２２年度国立大学関係予算の確保・充実についての要望書（国立大学協会作成）添付資料の抜粋
参考資料４	熊本大学の立地による地域への経済効果
資　料 ２－１	平成２０事業年度財務諸表の承認について（通知）
資　料 ２－２	平成２０年度財務諸表 財務指標による全国類似大学との比較
資　料 ２－３	平成２０年度国立大学法人熊本大学財務指標比較（グラフ）
資　料 ２－４	国立大学法人の財務分析上の分類
資　料 ２－５	平成２０年度国立大学法人熊本大学財務指標比較
資　料 ２－６	財務れぽーと
資　料 ３	平成２２年度概算要求事項について（施設整備事業） ほか
資　料 ４	平成２０年度に係る業務の実績に関する評価の結果について
資　料 ５	中期目標・中期計画（素案）